

テストコースや競技場・競輪場といった特殊道路を含む道路の設計や調査、舗装の試験などを手掛けるグリーン・コンサルタント(東京都品川区)。「道路業界は大きな変革期にある」と捉え、「皆さんが財産。一緒にレベルアップしよう」と社員に訓示した。舗装を追求してきた技術力を駆使し受注を拡大しながら、将来を見据え、新技術の導入と体制の整備を進める。

◇ 経営環境をどう見る。
「道路構造物のストックが更新期に入り、メンテナンスの時代になった。自動運転や電気自動車に対応したインフラも求められている。社会の変化に適応し、追隨する会社でないと困ってしまう。維持・更新の需要が高まり、点検などの業務が多くなるだろうが、技術員に制約がある。ICT、AI、建設DXなどに対応したり、活用したりしないと立ち遅れてしまい、働き方改革にも影響する。新しい

グリーン・コンサルタント

あんどう まさひろ
安藤 政浩氏

新技術で社会変化に対応

技術で変化にどう対応するか
がポイントになる」

——経営の方針は。

「安定して収益を確保するのが大事だが、仕事のポリシームに波がある。本社と設計センター、九つの営業所間で業務を融通する体制が整いつ

つある。労働時間と業務の集中を避け、仕事を安定して確保するためにも年間を通して業務量を調整できるようにしたい。人が行っひび割れ解析など、自動化や省力化を促す技術への期待が大きい分野は多い。業務を効率化できる技術を積極的に採用したい」

「自動車のテストコースや、バンクのある走路の設計など、道路舗装の専門的な知識と豊富な経験が当社の特徴だ。屋外の施工が多い舗装は地域によって材料が異なり、品質を確保するためのノウハウがある。品質試験などに用いる特殊な装置を保有し、舗装の性能を高める材料などの特別な解析や評価が行える。受注のほぼ3分の2を占めている設計業務や官公庁からの受注を増やしていきたい」

「前任の荒井明夫社長が手当や休暇制度の見直しを進めてくれた。設計や調査の部門があり、女性が多く活躍している。異なる分野から中途で入り、勉強しながら中核を担ってくれている社員や、新卒社員もいる。大学や高校から生徒を呼び、仕事や職場をアピールし、年齢のバランスが取れた構成にしたい」。

——担い手の確保・育成の
(5月25日就任)

新社長



1985年日本大学理工学部交通土木工学科卒、日本舗道(現NIPPO)入社。2018年技術研究所長。22年4月グリーン・コンサルタント顧問、5月25日付で現職。埼玉県出身、59歳。信条は「艱難汝を玉にす」。趣味はアウトドア系のスポーツ。